



## 聖家族 (ルカ 2:22-40)

シメオンは神をたたえ、マリアに語りかけた

聖家族の祝日を迎えました。ヨセフとマリア、幼子イエスで始まった家族のことです。わたしは、ただぼんやりとヨセフとマリアとイエスがいた姿を思い描くのではなく、幼子イエスを母マリアが腕に抱いて、ヨセフが見守る姿、このように聖家族を描いてみたいと思います。

喜んでください。来年3月に予定している黙想会の説教師が決まりました。使徒ヨハネの祝日に、使徒ヨハネの霊名の神父さまに頼み込んできました。その神父さまはあるものに目がないので、大好物をぶら下げて説教師を引き受けてくださるよう説得してきました。案外簡単に釣れました。平戸瀬戸での釣りより、よほど簡単でした。

話変わりますが、最近、聖体拝領をさせていて感じたことにちょっと触れたいと思います。聖体拝領はご存知のように直接口の中に、舌に載せて授ける方法と、手に載せてもらって自分で口に運んで拝領する方法と二通りありますが、最近舌をしっかりと出して直接聖体を拝領する人は少なく、手に載せてもらって自分で口に運ぶ人が多いようです。

聖体拝領に来るお母さんの中に、お子さんを抱っこしておいでになるお母さんがいます。感心だなあと思いつつ、器用だなあとも思います。わたしが感心するのは、口の中に、舌に載せる方法ではなくて、手に載せた聖体を自分で口に運ぶ方法を選ぶお母さんです。体重3kgか、それ以上のお子さんを抱えたまま、手を動かすわけですから、器用だなあと思うのです。

それはわたしにとって一つの気付きでした。母親は、子供を抱いたまま、もう一つのことをこなすことができるのです。説教の結論もここで見えてきています。お母さんたちは何気ないことなのかもしれませんが、幼子を抱いたまま、もう一つのことができるというのは新しい発見でした。

今週の福音朗読で、預言者シメオンと女預言者アンナが登場します。特にシメオンに注目すると、「シメオンは幼子を腕に抱き、神をたたえて言った」(2・28)とあります。ここまでは待ち望んでいたメシアに会えたわけですから自然な成り行きです。

しかし続けて、「シメオンは彼らを祝福し、母親のマリアに言った」(2・34)とあるのです。シメオンは幼子を腕に抱き、一方で神をたたえ、他方でマリアとヨセフを祝福したのです。

皆さんはこう言うかもしれません。「シメオンがマリアとヨセフを祝福するときには、もう幼子イエスは腕に抱いてはいないでしょう」と。わたしは違う考えを持っています。預言者シメオンがマリアとヨセフを祝福した時、もし幼子イエスもシメオンが祝福したとしたら、そこには矛盾が生じるからです。

シメオンは、はっきりと幼子イエスを「主が遣わすメシア」と理解していました。それなのにシメオンが幼子イエスを祝福するのは無理が

あります。ですから、この時点で預言者シメオンは幼子を腕に抱いていたに違いないと考えたのです。

もう一つ、わたしの考えと重なる部分があります。シメオンは母親のマリアにこう言いました。「御覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人を倒したり立ち上がらせたりするために定められ、また、反対を受けるしるしとして定められています。(中略)」(2・34)

「御覧なさい」とは、どういう状況でしょうか。母親がすでにわが子を抱いている状況で、そばにいる誰かが「御覧なさい」と言うのでしょうか。むしろ、語る人が幼子を抱いていて、注意を向けるために「御覧なさい」と言うのではないのでしょうか。

まとめるとこういうことです。預言者シメオンは、「主が遣わすメシア」「幼子イエス」を腕に抱いたまま、一方で神をたたえ、他方でマリアとヨセフを祝福したということです。先に母親は、わが子を腕に抱いたまま、もう一つのことを器用にこなしますと言いましたが、預言者シメオンにもそのまま当てはまるのです。

大胆に言わせてもらうなら、人は腕に幼子を抱いたまま、二つのことが可能なのだということになります。一方で神をたたえ、同時に人に語りかけたりすることができる、ということです。条件は、その人が幼子を腕に抱いているとき、ということになります。

わたしたちの生活でも、同じことは実現するのだと思います。同時に二つのことはできない。そう思っている人がほとんどだと思いますが、イエスを腕に抱いている人は、同時に二つのことが可能なのです。

ある人はこう言います。「現実の生活があるから、信仰と生活の両立はできない。」それは、本当の意味で幼子イエスを腕に抱いていないから、不可能だと思ってしまうのではないのでしょうか。幼子イエスをしっかり腕に抱いている家族は、信仰生活と社会生活を、同時に、両立させるのです。どちらかを捨てなければ、どちらかを取れないというものではないのです。

マリアとヨセフに連れられて神殿に来た幼子イエスを腕に抱いた預言者シメオンに学びましょう。幼子を抱いて、同時に聖体拝領のために手を広げる母親に学びましょう。

わたしたちが同時に成し遂げるのは無理だと思っていることは何でしょうか。同時に成し遂げる確実な方法は、幼子イエスをしっかりと腕に抱いて生活すること。これが唯一の答えです。